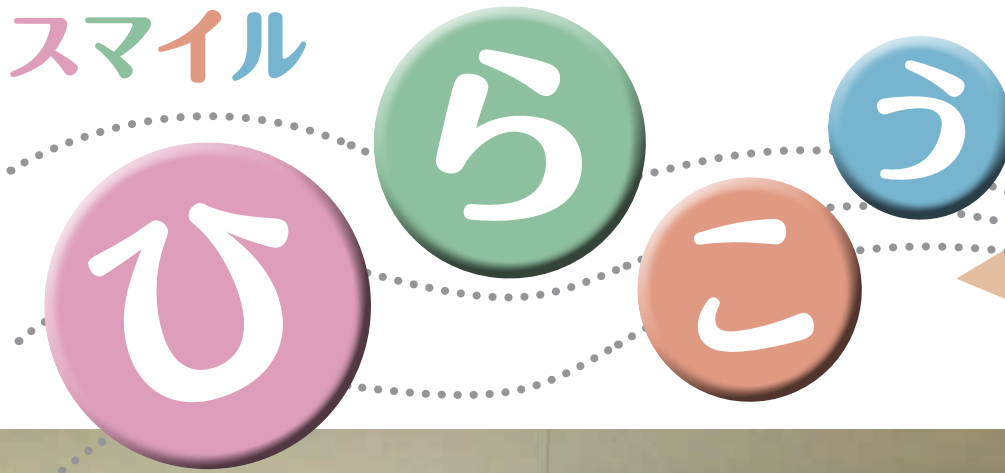


スマイル



新年のご挨拶

家族性高脂血症外来開設のごあいさつ／地域医療への貢献と奉仕／
核医学検査装置更新のお知らせ／Information



迎春

新年のご挨拶を申し上げます



枚方公済病院 院長
野原 隆司

新年あけましておめでとうございます。
院長赴任5年目を終えようとしています。5年以内にはどうしても成し遂げたいことが幾つかありました。救急を含めた急性期病院としての体裁を整え、働きやすい安心の病院環境をまとめ、さらに患者さんが不安なくいつでも受診できるような信頼できる地域病院の完成を目指しました。幸い当院全スタッフの絶え間ない努力により目標に近づいたと考えています。また学生、研修医を含めて若返りの基盤もでき院内には若いスタッフが満ちてきました。

ここで計画の最後に残っていたのは、連合会病院の中での地位向上のために共済医学会の会頭を引き受けることでした。健全な経営状況の下で、地域性にも合致するということがハードルが高かったのですが理事長の推薦を得て開催権を得ました。当院での学会主催は長尾病院の頃の初代院長国枝嘉一先生、さ

らに2代目院長の前田東作先生以来50年ぶりのことです。昨年10月京都のホテルグランヴィアで開催し成功裏に終了しました。この際に色々調べてみたのですが、1943年の戦時中の当院の開設時には陸軍大阪造兵廠の医療施設であった長尾病院も空襲を受けています。人的被害もあり大変な歴史の始まりでした。そのあと結核病院として貢献した時を経て、苦しい経営状況の京阪奈病院、同じ系列の新香里病院との合併のあと見事に地域の中核病院枚方公済病院として立ち直りました。このような時代を経てこそ今回の学会主催、そして会頭病院としての高いステータスを持つ病院として位置づけられたことは格段の喜びです。

このことに慢心することなく、さらに高い目標を掲げて努力を続けたいと考えています。今年もよろしく願います。



地域医療連携室 室長
北口 勝司

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年（平成29年）の新年の挨拶にて3つの変革を達成したいと述べました。

1. 内科系ERの充実。
2. 地域に開かれたHigh Care Unitの稼働。
3. 地域に目を向けることのできる研修医、専攻医の育成。

これらに関してはまだ不十分のところがあるものの、概ねは実現できたと考えております。また火曜日、金曜日に急性腹症に対する夜間外科緊急手術の対応が始まり、すでに始まっていた月曜日の夜間緊急内視鏡対応とあわせて、消化器系の緊急対応も可能になってきました。このように、入口部分（地域から病院へ）の対応は充実してまいりました。

今年（平成30年）の目標として、出口部分（病院から地域へ）の変革をあげたいと思います。今まで、病院から地域の病医院への関係は一方向性のものが多かったと思います。その方向を双方向性にすべく努力したいと思います。退院時カンファレンスを積極的に開き、地域の医療、介護の関係者の皆様と、十分な意見交換をして病院本位ではなく、地域本位の退院を目指していきます。また、循環器内科で平成29年9月より開始しましたが、心疾患二次予防プロジェクト（レインボープロジェクト）を通じて、地域一体となり心血管疾患による再入院を予防していききたいと思います。

これからの高齢化時代、病院完結型医療ではなく、地域一体型見守り医療が主役になるはずでです。そのため、病院への入口、出口ともに地域の要請、時代の要請にあわせて変えていく必要があります。できるだけ垣根の低い関係を築いていきたいと考えております。忌憚のないご意見を連携室までお寄せいただきますようお願い申し上げます。



副院長（看護部長）
畑 幸枝

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

地域包括ケアシステムの構築が推進される中、前方支援では迅速な入院受入れ、後方支援では入院早期から患者さんやご家族に関わり、スムーズな退院調整ができることを心がけてきました。今年度は外来看護の充実を図り、入院前から切れ目のない退院支援を行いたいと考えております。さらに、施設の方々や地域のケアマネジャーとの事例検討会や研修会を継続し、相互理解を深め、生活の視点に立った在宅支援を強化していきたくと思っています。

また、一昨年から超高齢社会を反映し「認知症ケアチーム」を発足しました。活動として、入院患者さんを対象に離床の機会を増やし、アクティビティを取り入れることで認知機能の低下予防やQOLの維持向上を目的に院内デイを開催しています。今年度は認知症看護認定看護師が誕生する予定ですので認知症ケアがさらに充実できると思っております。

患者さんやご家族に安心していただき、当院に入院して良かったと思っただけの心のもった看護が提供できるよう看護部一同努力してまいります。

看護部のモットーである「熱意」「創意」「誠意」の3つの心意気で看護いたしますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

家族性高脂血症外来開設のごあいさつ

平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。枚方公済病院 総合診療心臓血管救急センター 循環器内科の山本貴士と申します。このたび、当院が推進しております心疾患二次予防プロジェクト（通称「レインボープロジェクト」）の一環としまして、「家族性高脂血症外来」を開設させていただきました。

家族性高コレステロール血症（ヘテロ型）の患者様は、わが国においては25万人以上にのぼるとされていますが、その頻度は200人に1人の割合ともいわれ、現在では最も頻度の高い遺伝性疾患の一つであるとされています。

当院では年間350件～400件程度のカテーテル治療実績（狭心症および急性心筋梗塞の患者様も含む）がございますが、患者様ご自身に対する薬物治療介入は行っておりましたものの、患者様のご家族様への働きかけまでは行っておりませんでした。この「家族性高脂血症外来」の開設に伴い、今まで以上に虚血性心疾患の患者様における二次予防を意識するとともに、ご家族様における虚血性心疾患の一次予防もすすめていきたいと考えております。

さらに、地域の患者様の虚血性疾患の一次予防にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。「LDLコレステロール 180mg/dl以上」の患者様がいらっしゃいましたら、当外来にご紹介

いただければ幸甚に存じます。また、小児につきましては国立循環器病センターとの連携も可能ですので、ご相談いただければ幸甚です。

家族性高コレステロール血症は治療介入が可能な疾患であり、最近では治療の選択肢も増え、LDLコレステロールを目標値である100mg/dlまで下げることが可能となってきています。また、家族性高コレステロール血症（ヘテロ型）の患者様は、35歳前後でLDLコレステロールの累積値が冠動脈疾患発症閾値に達するとも言われており、30代～50代といった働き盛りの年代で早発性の心筋梗塞を引き起こす、といった問題があります。それ故に、早期発見・早期治療が何よりも重要であると考えます。さらに、家族性高コレステロール血症は純粋に医学的な問題だけではなく、社会的な側面も持った疾患です。そういった細やかな面にも配慮しながら、診療を行っていきたいと考えております。当面は金曜日午後の隔週（第2週、第4週）の循環器科外来にて予約をお受けしておりますので、ご連絡をお待ちしております。

最後になりましたが、病状が安定されました患者様をご紹介させていただくこともあるかと存じますので、ご高配のほど何卒よろしく申し上げます。



山本 貴士



高林 健介



藤本 隆富



藤野 高久

わだ整形外科クリニックから研修生が来ています。

【経緯】

2017年4月からわだ整形外科クリニックに理学療法士の新卒者2名が入職することになりました。和田院長は、新卒者に周術期の経過や、急性期のリハビリテーションを見ることが疾患の理解にも重要であると考えられ、当院に研修の要望を出されました。院長、整形外科部長、リハビリテーション科主任の承諾もあり、研修が実現することとなりました。



● ● ● 研修生紹介 ● ● ●



理学療法士
加賀山 颯

☑ 理学療法士になったきっかけ

小学生の頃から将来は人の役に立ち、人に必要とされる仕事がしたいと考えていました。そんな時に両親の仕事が理学療法士であると知り、この仕事こそ人の役に立てるのではないかと、これからも必要とされるのではないかと考えたのがきっかけです。

☑ 日々の臨床業務について

この4月から理学療法士として働き始めましたが、知識・技術・思考などまだまだ足りない事ばかりであると日々実感しています。しかし、和田院長をはじめ周りの先輩方から様々な視点で指導・サポートをしていただき、とても多くの事を勉強させていただいています。それらの学んだことを活かし、患者様が日に日に良くなっていくことを実感すると今までに感じたことのない喜びを感じます。

☑ 枚方公済病院での研修について

いつも大変お世話になり、誠に感謝しております。枚方公済病院さんでは隔週で研修をさせていただき、クリニックでは学べない急性期や術後の患者様に対する治療や心臓リハビリテーションなどの見学をさせていただいております。また、MRIやCTの撮影現場の見学をする機会も設けていただき、治療のみならず幅広く勉強させていただいております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



理学療法士
難波 優大

☑ 理学療法士になったきっかけ

自分自身が患者として理学療法士の方と関わる機会があったことがきっかけです。私は小学生の頃から野球をしていましたが、腰痛が続くことが度々ありました。しかし、理学療法士の方にお世話になり、ストレッチやトレーニング指導して頂いてから、腰痛に悩まされることはなくなりました。そして、自分と同じような方になりたいと考えるようになりました。

☑ 日々の臨床業務について

わだ整形外科クリニックでは、整形外科疾患を持つ様々な方が来院されます。肩が挙がらない、膝が痛い、スポーツ復帰に向けてなど、目標や目的も様々です。また、患者様は高齢の方から小学生など、幅広い年齢層の方を対象に理学療法を行っています。まだまだ、未熟ではありますが、枚方公済病院での研修で勉強させて頂いたことも活かしながら、日々の臨床業務にあたっています。

☑ 枚方公済病院での研修について

クリニックでは外来の患者様を対象に理学療法を実施しています。今回の研修では普段関わる機会のない患者様について学ばせて頂く機会を頂き、感謝しています。この研修を日々の臨床に活かしていくため、二週間に一度という少ない時間ではありますが、これからも多くの事を勉強させて頂きたいと考えております。

核医学検査装置更新のお知らせ

日頃は当院放射線科への画像検査のご依頼ありがとうございます。

この度、核医学検査装置更新に伴い、GE社製最新SPECT装置「Optima NM/CT640」を導入し、本年1月より稼働しています。今回導入した機種は、従来のSPECTカメラと吸収補正用のCT装置が一体となったもので、アーチファクトの低減等による検査精度、画質の向上が得られ、またCTとの融合画像により病変の解剖学的な位置情報を正確に把握することが可能となりました。

微量の放射線を出す放射性医薬品を体内に投与し、臓器や組織に集まる様子を視覚化した核医学画像はCTやMRI等の形態画像診断では評価できない生体の代謝や機能情報を提供することができ、現在も様々な疾患の診断に利用されています。

今回この機会に、“核医学検査でしかわからないこと”の中から、近年特に有用性の高まっている脳神経領域の核医学検査について少し紹介させていただきます。

ダットスキャン

黒質線条体ドパミン神経終末部のドパミントランスポーター（DAT）の分布を可視化することで、ドパミン神経の変性、脱落を伴うパーキンソン病を含むパーキンソン症候群の早期診断やレビー小体型認知症の診断精度向上、治療方針の決定に寄与します。

脳血流シンチ

アルツハイマー型認知症は症状発現前より後部帯状回や楔前部の血流低下が見られますが、画像統計解析手法を併用することによりこれが評価可能となり、早期診断に役立ちます。また進行例については集積低下（血流低下）の分布、パターンが他の認知症（血管性認知症、ピック病、レビー小体型認知症、皮質基底核認知症等）との鑑別の一助となります。

MIBG 心筋シンチ

MIBGはノルエピネフリンの誘導体で、心臓交感神経の機能や障害の程度を評価でき、心不全の重症度評価や予後予測、治療効果判定などに用いられています。近年パーキンソン病、レビー小体型認知症などのレビー小体病で心臓交感神経の脱神経（denervation）が高頻度に行っており、心筋へのMIBG集積が低下することが報告されています。これによりパーキンソン病とパーキンソン症候群を呈する他の疾患である多系統萎縮症（オリブ橋小脳萎縮症、線条体黒質変性症）、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症等との鑑別、レビー小体型認知症とアルツハイマー病の鑑別が可能となります。

脳神経領域以外にも、循環器領域、呼吸器領域、内分泌領域、泌尿器領域、消化器領域、骨・軟部領域においても“核医学検査でしかわからないこと”は数多く存在し、特定の疾患をピンポイントで診断することも可能です。

このような核医学検査の有用性、面白さを是非ご理解いただき、検査を依頼していただければ幸いです。

核医学検査に限らず、CT、MRI等についても検査依頼、読影結果などに関するご相談、ご質問等ありましたら気軽に電話にて問い合わせ下さい。

今後とも当院放射線科をよろしくお願い致します。



放射線科
雑賀 良典



● 第 66 回 共済医学会発表

10月25日(水)・26日(木) ホテルグランヴィア京都にて当院が会頭病院となり第66回共済医学会を開催しました。(参加者1,000名弱)

● 特別講演

I 「医療に期待する」

建築家 安藤 忠雄

II 「心臓外科治療の進歩と新たな手術の開発」

須磨スクエアクリニック院長 須磨 久善

III 「CCCが目指す生活提案の未来」

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長兼 CEO 増田 宗昭

● 会頭講演

「肢を愛でる -たかが肢、されど肢- (循環器医が見る肢の効用)」

枚方公済病院長 野原 隆司

● 第 5 回 枚方メディカルラリー

11月19日(日) 第5回枚方メディカルラリーに参加し、当院と交野消防の「チームドラゴン」が優勝しました。

● エコ除草一旦終了

11月22日(水) ヒツジとヤギによるエコ除草が終了しました。2019年3月より再来院予定です。

理念と基本方針

理念

医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

交通のご案内

JRをご利用の場合

【電車】 JR 学研都市線長尾駅下車 徒歩 10 分

【バス】 長尾駅から京阪バス枚方市駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

【電車】 JR 学研都市線藤阪駅下車 徒歩 10 分

【バス】 藤阪駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

京阪電車をご利用の場合

【電車】 京阪本線枚方市駅下車（京阪バス南口から長尾駅行）

【バス】 枚方市駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

※長尾駅より無料直通シャトルバスを運行しております。

（詳細は当院ホームページをご参照ください）



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号

TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093

<http://kkh-hirakoh.org/>